

ヒアリングの概要

1. 目的

今後の取組に向け、地域の高齢者の方を身近で支援している団体等の皆様からご意見を伺い、令和4年12月実施予定の市民アンケート調査において、把握すべき事項等のヒントを得て、市独自項目の参考としていく。

2. テーマ

高齢になっても いきいきと過ごすために

3. 実施日及び参加者

川越市介護保険事業計画等審議会委員に選出いただいている公共的団体にお声掛けし、委員より各団体の参加者を募っていただいた。

実施日	団体名等	参加人数
令和4年8月26日(金)	川越市ボランティア連絡会	4名
令和4年8月29日(月)	川越市老人クラブ連合会	7名
令和4年8月31日(水)	川越市保健推進員協議会	5名
令和4年9月1日(木)	川越市民生委員児童委員協議会連合会	4名
令和4年9月6日(火)	川越市自治会連合会	4名
令和4年9月14日(水)	審議会公募委員	3名

※所要時間は、各日90分間～120分間

4. 方法

集合形式。

事前に、事務局(市地域包括ケア推進課)より、ヒアリングシートを参加者に配付し、その内容に基づき、意見交換を実施。

事務局からは、2～3名出席。

5. ヒアリングでいただいた意見の一部

▶ 地域の中で、元気な高齢者の共通点

- ・いろいろなことに興味をもち、挑戦している。
- ・趣味がある。
- ・外出を積極的にしている。
友人が多い人は、外出の頻度も多い。
外出することで、おしゃれもすることにつながる。
- ・人と挨拶をして、会話が生まれ、そこから色々な情報を得ている。
- ・たくさんの人と関わりを持っている。
- ・仲間と過ごす時間が多い。
- ・一人でも旅行を楽しんでいる。

- ・よく食べている。
特に肉類をしっかりと食べている印象がある。
- ・よく笑う。
- ・よく動く。
- ・役割がある。(例えば、孫の面倒をみる等)
- ・「きょういく きょうよう ちょきん」がある人。
きょういく➡今日、行くところ
きょうよう➡今日の用事
ちょきん➡貯筋
- ・生涯現役・生涯学習
- ・様々な年代の人と交流がある。交流できる。

▶ どんな地域との交流があれば良いか。

- ・世代間交流
新しいアイデアではなく、既存の行事と世代間交流を絡める。
囲碁・将棋など年齢問わずに楽しめるものも世代館交流の取組としては良い。
地域行事(もちつき大会等)も良い。
- ・交流できる場(会場)が欲しい。
地域の高齢者に案内できるのは、歩いて15分圏内。それ以上の時間がかかる場所であると会場までの足の問題が出てくる。
場所があれば、その場を借りて、趣味活動や行事等を運営する人は、地域にいると思う。
- ・おしゃべり、散歩など何でもよいから、理由をつけて、集まれることが良い。
- ・集まる場でなくとも、清掃活動(学校の除草作業等)のようなものであれば参加する人もいるのではないか。
- ・散歩を始めることで、散歩中での挨拶が生まれ、交流にも発展するのではないか。
- ・子どもから大人まで誰でもふらっと立ち寄れる場所。(カフェなど)

▶ 地域の中の心配な方について

- ・外出をしない人
- ・話をしたがらない人
- ・挨拶しても挨拶しない人
- ・近所であまり見かけない人
- ・オートロックマンションは、誰が住んでいるのか分からない。
- ・家を訪問した際、今まで片付けていたのに、玄関先にスーパー等の買物袋が置かれたままになっている場合、要注意。
- ・自治会を抜けてしまった人。(役員が回ってくると辞めてしまう人も最近はある)。
- ・家族が遠方にいる場合や、いない場合のひとり暮らしの方。
- ・隣近所等に対して、他者への関心が薄い人。
- ・家族と同居はしているが、家族の中で役割が無い人。(家族が全て行ってしまう人)。
- ・地域を歩いている時、歩行が不安定な人を見かけると心配になる。

▶ 地域との交流の望まない人へのアプローチ方法

- ・地域での役割を面倒と考える人が多い。役員ではなく、地域の行事に、単発的な役割を与えると参加するのではないか。
- ・個人店の電気屋であれば、電球の交換等で高齢者宅に訪問することが多い。その人達に地域包括支援センターの存在を知ってもらい、何か変だと感じたら、連絡をもらうのはどうか。
- ・接骨院などは多くの高齢者が通うのではないか。
- ・近所同士で挨拶をすることから始めてはどうか。挨拶をすることで、思いやりが生まれる。
- ・高齢者が少しでも立ち寄れる場づくり。例えば、こども食堂があるのであれば、日中にシニア食堂があっても良い。

▶ 閉じこもり傾向がある人に対して、外出のきっかけとなる居場所とは。

- ・同窓会
- ・地域の活動する上で、市の関与は、地域の人たちの安心感につながる。
- ・日常での接点が必要。挨拶から始めても良いのでは。
- ・会の交流の場としては、市の出前講座を希望したいが、集まれる場(会場)がない。
※コロナの影響で、自治会館の利用がなかなか難しい。(人数制限等)
- ・場づくりは、重要と考えるが、地域に広い集会所などが見つからない。
公共でも、民間でも良いが、場(会場)があれば、活動の場が広がり、活動も広がる。
- ・趣味なら行くという人はいるのではないか。

▶ 男性のひとり暮らしの方への支援について

- ・男性は、比較的地域との関わりが少ない。引っ越してきた人は、より関わり方が苦手なのではないか。
- ・男性同士の交流の場があると良い。
- ・仕事を退職するまでに地域活動に関わってこなかった場合、参加するのに抵抗があるのではないか。
- ・e-sportsのような、誰もが初めて体験するようなものが参加しやすいのではないか。
- ・男性から男性の声掛け、アプローチが良い。
- ・社会的地位が高かった人ほど、閉じこもり傾向があるように感じる。
- ・男性は、個人で動く方が多い。なので、興味があることであれば、1人でも申込をするのではないか。
- ・何かきっかけがないと声掛けしにくい。飲み会という声掛けが効果的。
- ・女性からの声掛けが良いのではないか。

▶ そのほか

- ・川越では元気でいても、家族が住む地域に引っ越すことで元気がなくなっている話をよく聞く。地域や地域の人との交流がなくなるからではないかと思う。
- ・ボランティア活動を行うにしても、資金は必要になる。会員から会費を集めて、ボランティア活動をしているが、なかなか活動を拡大することが難しい。運営する資金があれば、活動に参加してくれる人は、地域にたくさんいる。